

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1174300028
法人名	社会福祉法人 宥和
事業所名	グループホームトマト村
所在地	367-0031 埼玉県本庄市北堀1946-1 (電話) 0495-27-4441
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年12月17日

【情報提供票より】(平成19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人(兼務3人),非常勤 0人,常勤換算	12.38人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	45,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	370 円
	夕食	300 円	おやつ	円
または1日当たり				

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡病院(内科)、医療法人健友会 口腔ケアセンター(歯科)
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、新幹線本庄早稲田駅から300メートル位に位置し、周辺には大規模な公園がある。また、ホームの近くに農地も確保されており、生活する上での環境は大変によい。法人代表者(管理者兼務)は、サービスの向上に熱心に取り組み、今後地域にとってどのような福祉サービスが必要になるのか検討するとともに、自ら看護師資格の取得に準備をしているなど、自己研鑽に努めている。職員が多く勤務する時間帯に「昼礼」を行い、管理者、両ユニットの職員がその日の予定や利用者の健康状況、特に注意する必要がある事柄の報告をしている。また、運営理念の復唱をするなどホームの理念の実現のため、現在のサービスへの理解、反省をして、サービスの向上を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の結果を、月1回の職員会議や、月数回のケース会議等で取り上げ、職員全体で改善策を検討している。その結果、利用者個々の介護計画のファイル化、苦情受付窓口の重要事項説明書への表示、玄関の開放等を実現し、サービスの向上につなげている。また家族、関係者への報告のため、「ホームだより」の紙面の充実に職員が取り組んでいるところである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で自己評価に取り組み、職員一人ひとりが各項目について問題点を共有し、それを計画作成者がまとめるなどしてサービスの向上につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、会議規則が平成19年9月に作成され、10月に第1回が開催されたところである。メンバーは家族、地域、行政担当者等が入り、今後ホームを運営する上で大変意義のあるものとなっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>月1回必ず利用者の近況、健康状況、金銭管理を家族に報告し、また来所の際はそのつど、最近の利用者の状況、健康状態を話し、連携をとっている。重要事項説明書の中で示している苦情相談機関に出された相談については、サービスに反映させる体制が築けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入り職員、利用者ともに市内一斉の清掃活動、地域の防災訓練にも参加、また、地域主催のイベントにも積極的に参加し盛り上げている。ボランティアや地域住民の見学も積極的に受け入れ理解を得るようにしている。また、近くに地域交流ホームもあり、ここで催されるいろいろなイベントにも参加し地域の人達と交流している。季節には近くの農家から新鮮な野菜が多く届けられている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きるを前提として「自尊心を大切に、ゆったり、おだやか」という事業所独自の理念を作成し、業務において実施している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の昼礼の際に参加者全員で理念を復唱するなど運営理念を常時意識した上で、業務に携っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催のイベントへの積極的な参加、自治会へ入り市内一斉の清掃活動や地域の防災訓練等に参加したり、地域住民の見学を積極的に受け入れ、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を職員全員が理解し、改善を要望されたような事柄については、できることから改善を図っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は会議規則が平成19年9月に作成し、10月に第一回が開催されている。運営者、管理者はこの会議が重要であることを理解し、この会議を十分に活用してホームに対する地域の理解を一層得たいと考えているが、会議の内容を職員全員が共有するには至っていない。		運営推進会議の中で出された要望、意見等を職員全員が共有する方法をホーム全体で話し合い、要望、意見等がサービスの中で具現化されるような仕組みづくりをされることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居に当たり、入居のための情報交換は随時行っている。また新たな広報誌、事業等を考えた場合は、そのつど相談等に行き、随時連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回必ず利用者の健康状況、金銭管理を家族に報告している。また来所時はそのつど、最近の利用者の状況等を話している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情相談機関が示されている。また家族や関係者が来所した際、要望等が出されたような場合は職員会議を開き対応できるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等の際には、利用者の状態により前もって家族、関係者に説明し、ダメージを防ぐ対応を検討している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、採用後研修、スキルアップ研修、外部研修は、ローテーションを組みながら実施している。外部研修受講後は全体会議等で報告し、全員が共有できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や事例検討会を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族等との密な相談により、利用者の不安をなくすように工夫をしている。また、本人に見学に来てもらい、ホームの雰囲気に自然に馴染れるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物、草取りを手伝ってもらったり、昔の料理などを教えてもらったりして支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望等は日々の会話、行動、表情等から把握し、できるだけ実現できるようにしている。また、困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、ミニカンファレンス、毎月数回開かれるケース会議で意見を出し合うとともに、本人、家族と連携し、関係者全員で作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年4回介護計画の見直しを行い、本人、家族、必要な関係者と話し合い、実情に合った計画を作成している。利用者の状態に変化のある場合は、利用者に向けた介護計画を職員全体で話し合い、家族にも確認しながら適宜作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師による健康相談や日常の健康管理を実施している。また、利用者の要望による月1回程度の外出昼食会を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関での受診を支援している。緊急で家族等が対応できない場合は、職員が付く添うなどして受診の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前もって家族やかかりつけ医に相談し、重度化や終末期についての方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を守るよう、職員は言葉かけや対応に十分気を付けている。また、利用者の守秘義務をきちんと守っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物は常時実施している。また、利用者の希望により、食事会やお茶を飲みに出かけるなど、できる限り一人ひとりのペースや希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなどを利用者と職員と一緒にいき、楽しい時間を過ごしている。盛りつけについても利用者と一緒にしながら実施しているが、利用者と職員と一緒に食事は取っていない。		食事に関しては職員間で話し合われ苦労されているが、グループホームの主旨を理解し、食事のあり方について再度検討されることが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	くつろいで入浴できるように配慮している。入浴日等については勤務ローテーションを希望に添えるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりにあった楽しみ、気晴らしの支援をしている。具体的には食事の手伝い、洗濯物の整理、共用空間の掃除等を一緒に行うようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物等、その日の利用者の健康状態により希望に沿った外出ができるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置したり、見守りを強化することにより、鍵をかけないケアに取り組んでいる。状況によりどうしても施錠する必要がある場合は家族、関係者に相談し、理解を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	安心、安全の基本である避難訓練については、定期的に年2回実施している。夜間訓練も実施している。しかし、地域住民との協力体制は不十分である。		いざという時に地域住民の協力が得られるよう、日頃から地域との協力体制作りを築いていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリーや栄養のバランスなどを把握している。水分、食事摂取状況についても確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所に畳やカーペットなどを敷き、家庭的な雰囲気を作っている。また、利用者の手作りの作品、人形等があり暖かみを感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の使用していた物をホームに持参するように家族に話をしているので、ホーム内でも使い慣れた物に囲まれながら居心地良く生活できる。自分の日用品はそろっている。		